

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
248	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Opioids in the nucleus accumbens stimulate ethanol intake. 側坐核のオピオイドがエタノール摂取を促進する	
執筆者	
Barson JR, Carr AJ, Soun JE, Sobhani NC, Leibowitz SF, Hoebel BG.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Physiol Behav. 2009 Oct 19;98(4):453-9.	
キーワード	
側坐核、オピオイド、エタノール摂取	
<p><b>要 旨</b></p> <p>側坐核は動機づけと依存の両方の制御に関わる。側坐核でオピオイドがラットに食料よりもエタノールを選択させる可能性を調べるために、Sprague-Dawley ラットエタノール、食料、水が利用可能な状態でモルヒネ、<math>\mu</math>-受容体アゴニスト [D-Ala<sup>2</sup>,N-Me-Phe<sup>4</sup>,Gly<sup>5</sup>-ol]-Enkephalin (DAMGO)、<math>\delta</math>-受容体アゴニスト [D-Ala-Gly-Phe-Met-NH<sub>2</sub>(DALA)、<math>\kappa</math>-受容体アゴニスト (<math>\pm</math>)-trans-U-5488methanesulfonate (U-50,488H)、オピオイドアンタゴニスト naloxone methiodide (m-naloxone)のそれぞれを2回側坐核に注入した。薬剤還流の解剖学的コントロールとして、側坐核の2mm 上方に薬剤の注入を行った。側坐核にモルヒネを注入した場合にエタノールと食料摂取が有意に増加したが、m-naloxone は食料や水摂取に影響することなくエタノール摂取を減少させた。選択的受容体アゴニストの中では、側坐核への DALA の注入が食料よりもエタノール摂取を増加させた。これはエタノール摂取ではなく食料摂取を促進した DAMGO、摂取に何も影響を与えなかった U-50,488H とは対照的である。解剖学的コントロールである側坐核の2mm 背部に薬剤を注入した時、オピオイドはエタノール摂取に何の影響もしなかった。以上の結果より、側坐核でモルヒネによって誘導されるエタノール摂取は大部分が<math>\delta</math>-受容体によるものであることが示された。アルコール濫用の Naltrexone 治療はアルコール摂取サイクルを阻害することによって作用していると考えられる。</p>	